

『 徳之島訪問記 』

国際法務 川畑行政書士 事務所

「夢」振 専務理事 川畑 進

1 初めに

私は、フラワー観光サミットに参加する為、徳之島「夢」振興会議のメンバーの一員として5月20日から徳之島を訪問した。当日午後、一行は雨雲に覆われた徳之島空港に到着し、既に先着の皆様と現地会員の重岡氏や田川氏等の皆さんが出迎えてくれた。早速、田川氏が空港入り口に設置してある花壇にソテツの植え替えを行い、皆で記念撮影を行った。その後マイクロバスで天城町平土野から徳之島町花徳に入り一路、宿泊地の亀津に向かった。その途中の池間（いけま）付近や下久志（しもくし）の道路の中央部に設置された花壇や道路沿いに植え込まれた色取り取りの花を観て一同心和む思いがした。「これらは地元の老人会等の皆さんが中心となって花の植え替えや手入れ地道に行っているようです。」と、バス内で誰かしら語ってくれた。以下に5月22日の「記念植樹に伴う島めぐり」で私が感じたこと等について少し述べてみる。

2 大原（おおはら）

亀津から大原の村へ通ずる山道をマイクロバスで走ると、山際のあちこちに白い花が、見え隠れする。案内の田川氏から、「あれが梅雨時期に咲くイジュ（伊集木）です」と教えてくれた。道際にそそり立つ満開の木の前で、車を止めて皆でしばし花を鑑賞した。どんよりと曇った小雨の降る灰色の風景の中に木全体がまるで綿に覆われたように際立って見える。この島で生まれた者として昔から見慣れた風景である。しかし、長年島を離れて、改めてこの花を見ていると何か新鮮さを感じる。この梅雨時のフムィキュン（うっとうしい）感覚さえ忘れ我々の心を和ませてくれる。図鑑等によると「イジュ」はツバキ科／ヒメツバキ属／半耐寒性常緑高木、学名：Shima liukuensis Nakai で、南西諸島や沖縄北部にも広く分布し、白い梅に似た花を咲かせる。幹の材質が堅いため、建築などの用材に利用されるほか、樹皮のタンニンを利用して魚を捕ったり、また古くは奄美地方では穀物倉庫として使用されたり、高床式の高倉の建築材としてもこのイジュの木が重宝されたようである。大原では現地管理担当者の森山さんから緋寒桜の植え込み状況について説明を受けた。今年春に植え付けた緋寒桜は5月中旬の台風6号の影響で葉先は枯れていたものの、もう新芽が出始めていた。やはり、植樹にあたって台風による塩害も考慮して植え込み場所も決め、苗木を支柱に縛り、草取り等かなりの手入れを要するものであると感じた。

3 義名山公園（ぎなやまこうえん）

マイクロバスは大原から阿権（あごん）に向けて出発した。山道を左右に大きく蛇行しながら下って行くと、山里に出て来た。ジャガイモ収穫後の畑には、取り残された小芋の新芽が疎らに生えている。やがて、サトウキビ畑が左右に広がってきた。丁度、春植えサトウキビの葉が膝下まで伸びそろっている。案内の重岡さんや利さんから「近年、徳之島産のジャガイモの価格は下落し、生産農家は採算が合わない状況に陥っている。しかも、他の作物への植え替えをするのにも未収穫の小芋や切れ端から芽吹いたものを取り除く必要があるので手間暇が随分と掛かってしまう。サトウキビは一度植え込むと3年程度は収穫できるが生産高は減少する。島の人口減少も有り近年、徳之島全島の生産高も低下しつつあるとのことである。しかも、ほとんどの農家がハーベスタ（収穫機）を利用しており、その設備投資や維持管理の経費も農家にとってはかなりの負担が掛かっている」と、農家の現状について語ってくれた。

バスの窓から見える畑の山側の斜面の白い房に私は一瞬、目をくぎ付けにされた。細長い葉っぱの間際に幾重にも垂れ下がった白い花が見える。やや赤い縁取りの蕾である。滴る梅雨をものともせず、ふっくらとした蕾みは大変みずみずしく、私たちの目を楽しませてくれた。利さんによると、「これがゲットウで、葉はフティムチ（ヨモギ餅）などを包んだりするムチガシャとして利用される。根を張りだす勢いが強く、農家の人達から厄介払いされる面もある」とのことである。

図鑑等によるとゲットウ（月桃）はショウガ科ハナミョウガ属（アルピニア属）の多年草。

学名 *Alpinia zerumbet*。地下茎は横に這い、あちこちから地上に偽茎を立てる。偽茎は高さ2mほどになり、

先端の方に互生するように大きな葉をつける。葉は楕円形で緑、やや硬くてつやがある。熱帯から亜熱帯アジアに分布し、日本では沖縄県から九州南部に分布している。

その後、我々は、目手久（めてぐ）の闘牛場（なくさみ館）や義名山公園も訪問した。これまで諸先輩が記念植樹してきた緋寒桜が立ち枯れてしまっていたり、心無くも伐採されたりした現場を確認し、一同はやや意気消沈した。けれども、義名山公園に到着した際には、皆元気を取り戻すことができた。なんと公園の周囲に以前に記念植樹をした「ハイビスカス」がその赤い花びらを燦然と輝かしているではありませんか！きっと、この公園には、日々木々に水やりや肥料の散布そして剪定等、いつも目を掛けて管理してくれる方々がいるに違いない。これまでの「夢」振興会議で幾度にも渡って徳之島に記念植樹を行ってきたが花木を生き永らえさせて花を付けるまでに育てることは並大抵なことでは無い。いくら記念植樹をしても花木に目を掛けて面倒を観てくれる地元の方々が生きてこそ木が育ち花を咲かすことになる。これは島の皆さんのご協力とお力添えが無くてはできない事である。従って花の維持管理には、担当者を明確にし、その維持管理に必要な経費の手当までも十分に考慮する必要があると私は心から感じた次第である。

4 阿権（あごん）

伊仙町阿権集落では伊喜副町長や地元の11会の皆さんが一同に集い、伊仙町に寄贈された「元平家（本家）の屋敷」の庭の草地を切り開いて緋寒桜を記念植樹してくれた。この集落の家々の門の付近には色々な花が植えられており、村の皆さんが花を愛でる素晴らしい心持が伝わって来た。また、ある旧家には池に石組みを配した小規模な日本庭園があり、しかも、木の剪定などにより維持管理されていることに私は感心した。また、樹齢約300年といわれるガジュマルの古木を平家（分家）から見学させて戴いた。お椀状に伸び上げる幹から幾重にも垂れさがった糸のような木根はやがて地に根付き太い幹となっている。この古木は幾年のもの間、地震や台風を乗り越えて生き延び、大和世から現代に至る島の歴史をきっと見てきたに違いない。凄い生命力である。私は視線をやや薄暗い根元から枝の切れ間から見える微かな梅雨空を見上げた。そして、目を閉じると、私自身が木の精霊「ケンムウン」の力を得られたような錯覚にとらわれた。花を愛でる気持ちがこの集落を訪問する遠来の客までも心和ませ清めてくれた。このあと民泊「幸ちゃんの家」で地元の皆さんと共に昼食を馳走になった。「芭蕉の葉っぱにくるんだ卵おにぎり」、地元で捕れたシビ（キハダマグロの若魚）の刺身、オードブル（魚の煮込み料理、島ラッキョウ、手作り野菜煮込みや漬物）に野菜たっぷりの豚汁、それにタンカンやシーグァサ風味のデザート等、久方ぶりに皆で島料理を満喫した。私は、この芭蕉の葉っぱにくるんだおにぎりを見たときに、幼少の頃、田植えのユイワーク（畑作業等で順番に労力交換を行なうこと、相互補助）の際にご飯やおかず、お餅を芭蕉の葉の上に乗せて皆で昼食を食べて、談笑したことをふと思い出した。徳之島に旅行される機会のある方々には、民泊「幸ちゃんの家」に是非、立ち寄って頂いて故郷料理を味わってほしいものである。

5 山(さん)

それから我々は伊仙町から天城町に入り西阿木名小中学校、章南二校、松原闘牛場、クロスカントリーパークやサンセットリゾートを訪問した。ここで特筆すべきことはクロスカントリーパークに植えた一部の緋寒桜が我々に木陰を提供してくれるほどまでに成長していたことである。この記念植樹の場所の背後（海側）には大きな松や他の木が生えており、やや奥まった木陰になっている。田川氏が「昔自分の父親が木（クウ）や木わら、人（チュウ）は人わらで育つ、と自分に諭してくれた言葉があったが、この言葉は要を得ている」と語ってくれた。見事な表現である。生物または生物群とこれを取り巻く環境との相互関係において自然の生態系が構成されていること「エコシステム」は皆さんがご承知のとおりである。人間も世の中で一人では生きてはいけない。社会においても何らかの人間関係を保持して共に地域社会の中で助け合って生活をする。我々関東地区の徳之島「夢」振興会議の面々は、記念植樹をした後は東京に舞い戻ってしまう。もちろん植樹場所を慎重に選ぶ必要性もあるが、植えられた木々と人が日々関わり合いを持つことが如何に大切であるかを私は改めて痛感させられた。その後、手々（てて）及び金見（かなみ）の集落を通過して山集落に到着した。この村は天城岳（標高533メートル）の東側に位置し、海岸は入り江となっており、天然の漁港でもある。私の幼き頃はこの山懐に抱かれた水豊かな環境で、よく遊び良く食べて皆に育んでもらった。お蔭様で私は今でも元気潑刺として過ごしている。この場をお借りして故郷の皆様にご心より感謝を申し上げる次第

である。この山集落の南側の入り口付近に、竹原 徳之島町役場花徳（けどく）支所長や林 区長等のボランティアの皆さんが多数集まって頂き、皆さんに協力してもらって緋寒桜（20本）の記念植樹を行って頂いた。此処に徳之島「夢」振興会議の一員として島の各地に植樹した花木が無事育つように地元の皆様に心からお願いする次第である。この桜が大きく育ち花咲かせる時節にまた故郷に舞戻って来たいものである。私が天城岳を振り返って見上げると、雲間から山頂がくっきりと見えた。山麓の方からはクッカル(アカショウビン)の甲高い「キュークルルー」という鳴き声が響いて来た。もう帰京する時間である。やがて飛行機は徳之島空港を緩やかに上昇して行く。私は右翼窓側に目をやり、もう一度天城岳を眺めた。「室生犀星」の詩をふと思い出した「ふるさととは遠きにありて思ふもの……遠きみやこにかへらばや」、東京への帰路についた。

「夢」振・賛歌 花の徳之島 (平成20年発表)

作詞 利 元一郎 (轟木出身)

作曲 久永 美智子

編曲 泉原 孝仁

1.(男)咲いた咲いたよ ハイビスカスが 空の青さに 人情け 気候温暖 住みやすく 笑顔で語る

島人しまんちゆに(ソレ) (二人)心癒こころいやす 徳之島 花の花の徳之島 一度は おいで

2.(女)咲いた咲いたよ 蘇鉄そてつの花が 海の紺碧あおきに 夢染めて 気候温暖 住みやすく 島の娘の

やさしさに(ソレ) (二人)心ひらく 徳之島 花の花の徳之島 一度は おいで

3.(男)咲いた咲いたよ アダンの花が 母の笑顔が 目に浮かぶ 気候温暖 住みやすく 未来あしたを語る

島人しまんちゆに(ソレ) (二人)心躍こころおどる 徳之島 花の花の徳之島 一度は おいで

4.(女)咲かせましょう 貴方の花も 溢れる思い 郷土愛 気候温暖 住みやすく 踊り明かした

十五夜に(ソレ) (二人)心酔こころよわせる 徳之島 花の花の徳之島 一度は おいで

(この歌はカラオケ店で歌えます)



徳之島空港着 田川氏のソテツの植え替え
左側：NPO法人夢振興会議 会長横田氏、
フラワー委員長 岡村氏



徳之島空港着 記念撮影
左から重岡氏、ホテルニュー西田代表西田氏、村岡氏、
夢振会長横田氏、宮原氏、川畑、利氏、津田氏、頂氏



義名山公園のハイビスカス



阿権の民泊
「幸ちゃんの家」 島料理(芭蕉の葉に卵おにぎり等)



クロスカントリーパーク (緋寒桜を背景に記念写真)



徳之島町山の記念植樹 (天城岳を背景に記念写真)



第71代～73代 内閣総理大臣 中曽根 康弘 先生から「夢」振 10周年 お祝いメッセージの色紙です。
土屋 光男 氏(当時の徳田 昌則 理事長の友人)の依頼で、書いて頂いて贈呈されました。

NPO 法人徳之島「夢」振興会議

入会のご案内

- ① 島のフラワー運動に対する協力事業
- ② 島の特産品 PR 及び販売協力事業
- ③ 島の観光開発協力事業
- ④ その他島興しに役立つ関連事業 (例えば研究・調査)

年会費

正会員	5,000 円
青年会員 (30 歳未満)	3,000 円
賛助会員	個人 1 口 1,000 円
	団体 1 口 10,000 円
協力会員 (作業の協力)	年会費 ナシ

「夢」振だより 編集後記 (事務局長 町田憲孝)

- ★ 本 14 号は「夢」振が当初から、これまで 10 年以上に亘って取り組んで来て、ある程度島内外に浸透しつつあるフラワー関連の現状を多くの皆さんと認識を共有するためフラワー関連中心号にしました。
- ★ 「夢」振の状況はホームページでご覧になれます。どうぞご利用ください。
- ★ パソコンのメールアドレス保持者はメールアドレスを事務局へ連絡すればその都度情報を流します。
- ★ 徳之島出身者がゼロであるにもかかわらず、東京の武蔵野大学さんが今年から向こう 10 年に亘って、多くの学生を徳之島へ派遣して、あらゆる角度から、徳之島を引立てる企画を実践開始しました。
- ★ 私たち徳之島出身者一人ひとりがこの取組に対して今後応えていく必要があると考えます。徳高からの受験生の増加、徳之島に長期滞在する学生への浄財面での支援、食料品の提供、学生たちが快く馴染めるように時々出かけて行って懇談や島の名所旧跡の案内等ギブアンドテイクの精神での対応等等。
- ★ 恒例行事になった関東徳洲会企画の 2 月第 2 日曜日東京代々木公園野外劇場・イベント広場に於ける徳之島のおいしいジャガイモ「春一番」を始め、徳之島物産展は故郷に帰ったような雰囲気です。年一度沢山の徳之島出身者が集い、語り、故郷の味を懐かしむ場になっていると思っております。